

社会－５（歴史的分野） 討論を取り入れて時代の特色をとらえさせる事例

【学習活動の概要】

<p>1 単元名 中世の日本</p>												
<p>2 単元の目標</p> <p>(1) 12世紀から16世紀頃の我が国における武家政権の展開と社会，文化の動きを理解させる。</p> <p>(2) 課題解決的な学習や討論学習を通して，主体的に学習する態度や多面的・多角的な見方・考え方を身に付けさせる。</p>												
<p>3 評価規準</p> <p>【社会的事象への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中世における武家政治の成立と展開や，東アジア世界との関わりに関心を高め，学習課題を設定して追究し，まとめ発表する学習や，討論する学習に意欲的に取り組んでいる。 <p>【社会的な思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中世における武家政治の成立と展開や，東アジア世界との関わりについて，中世という時代の特色を多面的・多角的に考察している。 <p>【資料活用の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中世における武家政治の成立と展開や，東アジア世界との関わりについて，様々な資料を活用して，そのあらましをとらえている。 <p>【社会的事象についての知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中世における武家政治の成立と展開について，東アジア世界との関わりを背景に理解し，その知識を身に付けている。 												
<p>4 教材</p> <p>本事例は，単元全体に課題解決的な学習や討論学習を取り入れることによって「時代の特色」をとらえさせることをねらいとしたものである。具体的には，学習指導要領の内容の「(3) 中世の日本」において単元を再構成し，中世の政治・外交・社会・文化などについて，学習課題を設定して追究しまとめ発表する学習を行った。そして，その発表を受けて「中世は武士の時代か，民衆の時代か」というテーマで討論を行い，中世の特色をとらえさせるようにした。</p>												
<p>5 主な学習活動</p> <p>(1)単元の展開（全9時間）</p>												
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="220 1279 336 1330"></th> <th data-bbox="336 1279 890 1330">学習活動</th> <th data-bbox="890 1279 1390 1330">言語活動に関する指導上の留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="220 1330 336 1451">第一次</td> <td data-bbox="336 1330 890 1451">○小学校で学習した内容を確認し，中世の時代のイメージをつかませる。(1)</td> <td data-bbox="890 1330 1390 1451">・中世の時代のイメージについて，自分なりに予想して意見をまとめさせる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="220 1451 336 1572">第二次</td> <td data-bbox="336 1451 890 1572">○中世の政治・外交・社会・文化について学習課題を設定し，追究し，まとめ，発表する。(7)</td> <td data-bbox="890 1451 1390 1572">・収集した資料を検討し，発表用資料にまとめさせる。 ・発表内容を基に，中世の特色について意見をまとめさせる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="220 1572 336 1731">第三次</td> <td data-bbox="336 1572 890 1731">○「中世は武士の時代か，民衆の時代か」というテーマで，グループ討論，クラス全体での討論を行う。(1)本時</td> <td data-bbox="890 1572 1390 1731">・どちらかの立場に立たせて，グループ，クラス全体での討論を行う。 ・討論内容を基に，中世の特色について意見をまとめさせる。</td> </tr> </tbody> </table>		学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	第一次	○小学校で学習した内容を確認し，中世の時代のイメージをつかませる。(1)	・中世の時代のイメージについて，自分なりに予想して意見をまとめさせる。	第二次	○中世の政治・外交・社会・文化について学習課題を設定し，追究し，まとめ，発表する。(7)	・収集した資料を検討し，発表用資料にまとめさせる。 ・発表内容を基に，中世の特色について意見をまとめさせる。	第三次	○「中世は武士の時代か，民衆の時代か」というテーマで，グループ討論，クラス全体での討論を行う。(1)本時	・どちらかの立場に立たせて，グループ，クラス全体での討論を行う。 ・討論内容を基に，中世の特色について意見をまとめさせる。
	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点										
第一次	○小学校で学習した内容を確認し，中世の時代のイメージをつかませる。(1)	・中世の時代のイメージについて，自分なりに予想して意見をまとめさせる。										
第二次	○中世の政治・外交・社会・文化について学習課題を設定し，追究し，まとめ，発表する。(7)	・収集した資料を検討し，発表用資料にまとめさせる。 ・発表内容を基に，中世の特色について意見をまとめさせる。										
第三次	○「中世は武士の時代か，民衆の時代か」というテーマで，グループ討論，クラス全体での討論を行う。(1)本時	・どちらかの立場に立たせて，グループ，クラス全体での討論を行う。 ・討論内容を基に，中世の特色について意見をまとめさせる。										
<p>(2)本時の学習</p> <p>①目標</p> <p>討論を通して，中世の特色をとらえるとともに，多面的・多角的に考える力を身に付ける。</p> <p>②本時の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「武士の時代」「民衆の時代」の二つの立場に分けて，グループ討論を行う。 ○「中世は武士の時代か，民衆の時代か」というテーマでクラス全体で討論を行う。 ○討論内容を基に，中世の特色について自分の意見をワークシートに記述する。 												

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

学習指導要領歴史的分野の内容「(3) 中世の日本」は、武家政権が成立して展開する、いわゆる鎌倉時代から室町時代を中心とした時期の政治・外交・社会・文化の動きを扱う。この大項目を扱うにあたっては、鎌倉時代や室町時代というスパンで時代の特色をとらえるのではなく、中世を通してどのような時代の特色があるのかということ考虑した学習が必要である。そこで、本事例では「(3) 中世の日本」の単元全体をひとまとまりにして、中世の政治・外交・社会・文化などについて、学習課題を設定してグループごとに追究し、まとめ、発表する学習を行った。

学習指導要領歴史的分野の内容(1)のウは、学習した内容を活用して、その時代を大観し表現する活動を通して、各時代の特色をとらえさせることをねらいとしている。そこで、本事例では、「中世は武士の時代か、民衆の時代か」という二つの立場を設定し、中世の特色をとらえさせようとした。

【言語活動の充実の工夫】

○時代の特色をとらえる討論学習の工夫

中世は事象間の関係が複雑で、生徒にとっては理解しにくい時代である。しかし、一方で様々な特色があり、生徒にとっては自分なりに時代の特色をとらえることが可能な時代だともいえる。本事例では「中世は武士の時代か、民衆の時代か」という二つの立場に生徒をそれぞれ立たせて、グループ→全体という流れで討論を行った。そして、最後に立場を離れて自分なりの意見(考え)によって、時代の特色をとらえさせようとした。

- ・討論のテーマは、論点が明確で各時代を大観でき、生徒の関心を引きつけるものが望ましい。本事例では、「中世は武士の時代か、民衆の時代か」というテーマで討論を行った。
- ・多面的・多角的に考える力を育てるためには、生徒をいくつかの立場(意見)に立たせて討論を行うのが有効である。歴史学習の討論では、自分の意見に固執するのではなく、様々な意見があることを知ったうえで自分の意見を持つことが大切である。本事例では、ディベートのように最終的な判断を下すという活動はせず、最後は立場を離れて自分の意見をもたせるようにした。
- ・討論を活発に行うためには、簡単な討論から次第に積み重ねていくことが大切である。本事例では、自分の意見を発表しやすくするため、まずグループによる討論を行ってから、クラス全体での討論へと進めていくことにした。
- ・歴史学習の討論では、生徒がもっている知識の量で討論の質が決まりがちであり、討論を活発に進めるためには、その前の学習が大切である。本事例では、グループで課題解決的な学習を行うことによって、生徒に中世の政治・外交・社会・文化の全体像をつかませるようにした。

○三つの場面で時代の特色をとらえる

討論を活発に行うことは、一つの歴史的事象について、自分の見方や考えだけでなく、様々な見方や考えがあるということを知るうえでも有効である。しかし、生徒はどうしても自分の意見に固執しがちになる。そうならないためには、自分の意見を見直すことが大切である。本事例では、第1時、第8時、第9時という三つの場面で生徒に意見を再検討させるようにした。言語活動の充実の実際例として、それぞれの場面における指導内容と生徒の活動の様子を記そう。

まず、第1時に中世の概要を確認した時点。小学校の学習で印象に残っていることを記述させると、「源頼朝」「元との戦い」「金閣・銀閣」などの意見が多かった。そして「武士の時代か、民衆の時代か」については、約9割の生徒が「武士の時代」という意見を記述した。これは、小学校では「民衆」に関わる学習内容をほとんど扱っていないことが関係している。

次に、第8時の学習課題の発表が終わった時点。それまでの学習を生かして、時代のイメージとともに「武士の時代か民衆の時代か」について意見を記述させると、「民衆の時代」という意見が増え、「武士の時代」が約6割、「民衆の時代」が約4割であった。これは、発表内容の中で一揆、農民の自治など民衆の活躍が印象深かったためであろう。

最後に、第9時のグループ討論・全体討論の後。自分の立場(それまでの意見)を離れて、「中世は武士の時代か、民衆の時代か」について意見を記述させた。また、この場面では「どちらともいえる」という意見も可とした。討論前の意見では「民衆の時代」という意見が多く、実際に討論でも「民衆」側が優勢であった。しかし、最後の場面では、それまでの自分の意見に固執せず、様々な意見があることを認識し、他者の考えを参考にしながら自分の意見を記述している生徒が多数みられた。約3割の生徒が「どちらともいえる」という意見となった。